

県外環境取組事例

エコミュージアムはじめてめもり

大人が知ったり体験したりすること

そもそもエコミュージアムを導入されたきっかけは

「明日の淡海」では、2003年2月発行の8号で、「エコミュージアム」を取り上げました。多くの費用を使わず、ていねいに地元文化を紹介するやり方は、その後滋賀県でも、「湖国まるごとエコミュージアム」事業が展開されるなど、多くの注目を浴びるようになりました。ただ「エコミュージアム」という言葉が一人歩きしているという感もあります。そこで、本誌ではその原点を見つめ直すため、日本への導入者である山形県朝日町の西澤信雄氏にお話を伺いました。

西澤氏（朝日鉱泉にて）



西澤信雄氏 プロフィール

大津市生まれ。現在山形県朝日町にて「朝日鉱泉」を経営。日本ネイチャーゲーム協会専務理事。その他山形県や朝日町の各委員を歴任。日本で初めてエコミュージアムを朝日町に導入する。

（大学を出て、朝日町へ来て）今でいう自然観察教室、「ナチュラリストクラブ」を作ったんだね。20年くらい前ですね。子どもたちと自然を見に行ったりとか、機織りや炭焼きとかあったんでそれを見に行ったり、（そうするうちに）これは子どもが体験する以上に、大人が知ったり体験したりすることが必要ではないかなと（思っている時に）ある千葉の博物館の学芸員の人に会いました。これは子どもが体験するしくみではなくて、大人が自分たちの地域を体験するしくみにするべきではないかなと話したら、ごく最近よく似た話を聞いてそれが「エコミュージアム」だと教えてもらったのです。はじめて「エコミュージアム」を聞いた時は、エコロジーとミュージアムだからたいへんよい言葉だなと思いました。次に平塚の博物館の人が、新井重三先生（博物館学）の論文を送ってくれた。それは自分の考えていることと同じで、しかもフランスで行われていることで、そこに「ジョルジュ・アンリー・リビエール（仏）」のエコミュージアムのこと載っていたんだね。

立派でなくてもいい

フランスにほんまもんを見ようと行ったら、展示が非常にシンプルで、中学校の文化祭という程度の展示だったから、あの論文にあったように「見せ方を立派にする」と、「見る人も立派な人しか見なくなる」ということなんだな。「これはだれが作ったんですか」と聞いたら、地元の人を作っているということだった。「作っているところを見せてくれませんか」と言ったら、「二階で日曜日になったら近所の人に来て作ってるんだ」ということで、それももう楽屋みたいなもんでした。ああこれいいんだと思って自信もって帰ってきて、新井先生とコンタクトとったんですよ。「先生の論文見てフランスに行ってきた」と言ったら、「えー、エコミュージアムをエコミュージアムするためにフランスに

エコミュージアムとは

1960年代にフランスで提唱された新しい博物館の考え方。ひとつの大きな博物館施設に様々な展示品を持つということではなく、いくつかの「サテライト」と言われる施設や場所で見学者にPRし、「コア」と呼ばれる各サテライトの紹介をする施設が存在します。小さな地区単位でもできますし、滋賀県のような全県にまたがる広域的な取り組みもできます。



雲の中の大朝日岳

朝日鉱泉付近の溪流

見に行った人は君が初めてじゃないの。まだぼくも見てないんだから。」とびっくりされたんです。新井先生すごくいい人で、朝日町に来てくれていろいろな話をしてくれました。ただまったく情報がない頃で、フランス向こうでもらってきたパンフレットとか、訳したりして、だんだん形づくっていったんだ。あの人だったらわかるだろうという人をピックアップしてエコミュージアム研究会を作って、毎月一度ずつと何年も集まったな。

地元にもニーズはあったんですか。

あったんだと思いますね。地元には阿部宗一郎さんがいて、町民憲章を創るなど様々な活動されたえらい方で、朝日町の基本構想をつくるという機会があり、私もメンバーに入っています。その方もメンバーにいたんです。基

本構想委員会なんてものは、普通は形式的で本格的な話をしないんですね。でもその人と口論になって、三十代だったからな。「おかしいよ。地元のものを見直して、地元のものを生かして、やっていかないとダメじゃない。」なんて話したんです。

若くて、よそのものに生意気だったんですね。ただこの町がたいへん社会教育のすずんだ町だということは、はじめに聞きましたね。なるだけ民間人いれてなんとかしようとか。いろいろなることを民間に主体的にやらしてあげようとか。そういうことがベースにあったかもしれないね。役場の職員だけですべてやるうというのではなかった気がするね。

ネットワークとしての「エコミュージアム」

ところで、どうしてフランスで広がったんでしょうか。

エコミュージアムの考え方は、反権力の考え方なんです。自分が自然保護運動とかやってましたから、そういう感覚があったんでしょうね。中央集権に反対するのが思想のベースになっていますから、なにもかも画一化して、中央に集めたりしない。コア(中核施設)が中心ではなくて、サテライトが中心なんです。サテライトはフランスでは、「アンテナ」というのですが、まさにアンテナなんです。それがエコミュージアムの中でどうなっているかという点、中央集権的ではないので、いくつかのサテライトの持っている力がおのおの動くことによって、一点集中では

なく多点集中で地域の問題を解決するという理論でなりたっていることがすごいんだと思うんです。そこにいる人が自分の持ち場を守ればいいんであって、いきなり行政がここがコアだといってくっつけてもよくない。つまりネットワークなんです。ネットワークとしてエコミュージアムがあるんであって、中央とサテライトという関係ではないです。コアから指令がいくというのは錯覚じゃないかな。

地元のお年寄りの話を聞くのが好き

なぜ、そういうことに思いついたかという点、伏線があって、こちらに住んでから年寄りの話を聞くのが好きで、自分自身としては本を書いた関係があって、山関係の人、鉄砲打ち関係の人に、十人とか十五人とかに話を聞いていた。そういう人は行ってみるととても親切で、話をしたがついてくるといのがはつきりわかったし、テープ取っても抵抗ないし、冬だったらみんな暇だし、すごく親切に話してくれて、それもみんな自分の知らないことばっかりで、こちらの知識が増えるにしがたがつて相手の話す量も増えてくる。となりの町に、語り部のような人がひとりいて記憶がよくって山の猟や山仕事の話をしてくれました。二泊三日ぐらいで真冬に何回も行ったんだよね。(この人の話は一冊の本になりました「朝日連峰の狩人」山と溪谷社)学者の言っていることは、机の上の話であって、地元の話は地元の人がよく知っているんだ。「りんごは大学の農学部で先生が知っている

のではなく、生産者がよく知っている。」のたとえで、山のことを言えば、山で生活している人が知っているな。私はよそから来たから、まわりで山菜とったりすることをまったく知らなかったから、そういうことを教えてもらうことがうそみたいに面白かったし、どんどん多くの人達に話を聞いてたから、エコミュージアムの考え方の中にそういう言葉が出てくると、うれしかった。

ある程度の町の中にそういう人が何人もいる、表現してもいいものがいっぱいある。エコミュージアムの文献の最初に書いてあった言葉が、あまりにも的確ですごくびっくりしたです。どうしてこういうことをこの人たちは考えたんだろうかと。「住民が熱意とアイデアを出し、行政が資材を出す。」まったくそのとおりだと思った。私は自然保護に関しては何十年と勉強しているわけですから、行政の人は三年四年ぐらいで、対応すると明らかに差があるわけですよ。行政の人は自分たちがプランを作る立場なんだという錯覚におちいつてるんだけど、本当は住民が自分達の地域のプランを作る能力があるのだ。エコミュージアムは住民の心を写す鏡だといっている。まさにそのとおりなんだよね。住民が学芸員だというのわかるしね。よそから見学に来た人は話を聞かせてもらう人なんだ。多くのフレーズがすべて瞬時に理解できたというか、ああこれだと納得した。

地元の人が地元のことを

朝日町でも、今度はなるべく若い人がやらにゃいかんということで、安藤くん(安藤竜

二氏 特定非営利活動法人朝日町エコミュージアム協会代表)が中心になってがんばっている。理事会とかは出るんだけどなるべく関わらないようにしている。彼らのサポートをしようと思ってるんだけど、基本的に行政がいつも正しいと思ってる人にはこういう活動はなかなかできないと思う。それはまちがないと思う。基本的に行政から補助金もろてやろうと思ってる人には無理ですね。役場の職員なんかもいて、エコミュージアムは実は役場のおかげで出来ていると思ってる。それが間違いのもんだ。

私は大津で生まれて高校卒業まで大津で育ちました。大学を出て26才で朝日町に来ましたので、一番こわいのは、どこかへ講演に行つてエコミュージアムを理解してくれたと思



大沼の浮島案内版



朝日町サテライトのひとつ大沼の浮島

つた時、最後に、致命傷をいわれるのはつらい。「西澤さんは、よそからこれなんだですよね。」そうすると今まで話したことがひっくり返ってしまうですよ。安藤くんに言ってるんだけど、僕が関わってもいいんだけど、「朝日町のエコミュージアムはよその人に創られたといわれてしまうよ。」地元の人が、地元を知らない、地元はよくならないんだ。」どうみたって。だから、地元の人がちゃんとやる。安藤くんなんかは優秀ですからね。地元で生まれて地元で育つてののに、センスは地元の人を突き抜けてるし、彼なんかの話の方がつくづく説得力あるよな。民間であっても、どれだけ町作りに対する意志を持てるかということ、行政なんか何するものぞというか。その点彼はすばらしい。

将来の日本とエコミュージアム

私は、はじめからエコミュージアムの考え方、将来日本はこれしかやっていけないと思いましたが。まちがいない。今までは、個人個人の隙間を行政が高い金を負担し埋めていたんだけど、これからは個人が埋めなきゃいけない。それをボランティアといつてはいけません。生活のために手助けする。子どもが動けば大人は手助けをする。それをボランティアといつてしまうと、それは生活というものから離れたレベルになってしまう。祭りに参加するおじさんたち、神社の氏子なんて人は、ボランティアとは思ってないんじゃないかな。それをボランティアという言葉に置き換えるとよくない。まさに「エコミュージアム」という言葉はそういうことなんだけどね。

安藤君のおじいちゃんがなくなつた時、そのテープをお葬式の時に見たんだよね。そうすると安藤君自身が感動したんだよね。安藤君はおじいさんが山の生活を楽しくそうに語っているのをはじめて聞いた。おじいさんは聞いてくれる人がなかつたから語らなかつたんだよね。なんていうかな。そこがエコミュージアムということなんだよね。なんでもない事実が、ほつといたら、なんでもなく流れていくんだけど、ある人が意図的にすくいあげるとか、意図的に残るしくみ、ほかに伝えていくしくみを作るのが、エコミュージアムじゃないかな。

エコミュージアムは簡単に、ひとつでいい。

既存の博物館についてはいかがですか。

確かに琵琶湖博物館の中を見ると、さすがに博物館としては進んでるし、最先端の展示をしているのはまちがいない。焦点の当て方なんかすばらしいと思う。でもこういう知識とかそういうのは一気に伝えたら忘れてしまふということかもしれない。なにもかも自分のところにはたくさん宝があるから、全部紹介したれというのダメで。たとえば一個のサテライトを一日かけてゆっくり見るとか、そうしていくもんでしょね。どうしてもサテライトが五つあれば、転々としてしまうからね。博物館でもそうだね。入ったら全館みてしまふね。そんな莫大な量の知識が半日で理解されたら、たまつたもんじやないと創った人は思ってるんじゃないかね。でも今までの日本の博物館はそうできていたということは、いいところもあり、悪いところもあった

んですよ。こないだイタリアへ女房と一緒に旅行して美術館めぐりをして、はつと気がついたんだけど、普通はそういう美術館で、順番に美術品を見て「ルネッサンスはどうだ」とか「歴史がこうだったんだ」とか理解しようとするじゃない。あれが根本的なわれわれの知識の吸収の仕方なのミステイクなんです。女房が一言「この美術館はこの絵だけ見ればいいのね。」と行って、目が覚めた。そうなんだよ。そんなにたくさん理解できないよ。博物館で全部観るとかは、本当は変なんです。よね。なにもかも寄せ集めた博物館を造り、5時間で観てくれというのはおかしい。琵琶湖博物館だつて昔の家の前だけで一日いたほうがよほど理解できるんだ。小中学生が博物館に行つて早周りするのではなく、何度も目的に応じて訪問できれば一番いい。特に琵琶湖博物館には、エコミュージアムもそうだね。コアに資料を集中し、コアだけ観るのはよくない。サテライトを一日かけてじっくり観る。ほんとうにゆっくり博物館に滞在できるよになつてきたら、いいことになるんじゃないですか。

西澤さんは、大阪の出身ですが、大阪の時の思い出はありますか。

大阪のよさつてなんだろう。歴史がごろごろころがっているね。でも、さっきの話と同じ、人は結局いろいろなもの散らばっていても、一個なんですよ。私にとつては今でもたまに大阪に帰つて仲町商店街を通つて想い出すのは、昔はなやかだった頃、夏にあそこを歩いて、あずきの氷菓子が氷の上に置いてある水羊羹みたいなもの、それが買つてほしかったけどどうとう買つてもらえなかつ

たということ。それを今でもあそこ通ると想い出すね。でも、いい子ども時代を送つた。正月も夏休みも楽しかつたし、正月にお年玉もらつて仲町商店街でいろいろ買つた。あそこすべてがあつた。そこが私の銀座だった。もちるん琵琶湖で泳いだり釣りをしたりした思い出も大きいけど仲町商店街の思い出は忘れられないね。ふと想い出すのはそういう風景だね。

エコミュージアムに関わつてから、町づくりががんばっているところを、あちこちいっばい見に行きましたよ。自費でも行きました。ただどの街いっても共通点みたいなところがあつたけど、大阪には川がないんだよ。湖はあるんだけどね。たいていうまく行っているところには川があるんだよ。どこのいい街いっても、川があつて、合流点があつて、しかもそこに城がある。風水なんだよね。膳所城は琵琶湖のほとりで(位置関係は違つ)、でも三井寺とか比叡山がそういう位置関係にあるのかなという感じがしますね。そういえば小さい頃は、三井寺あまりこわくって入れなかつたよね。私の生まれたのは新町といつてね。新町のこどもは、不思議なことに新町の子としか遊ばない。祭りの組織も町単位で、大津市一体ということがあまりないところだったね。

そういう意味で大阪は沢山の町、コアのないサテライトの集合体かもしれませぬね。

もう少ししたら大阪に住んで一つ一つの町(サテライト)をゆっくり廻つて楽しみみたいと思います。